

別記第1号様式(第7関係)

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		池袋副都心整備ガイドプラン検討委員会（第二回）
事務局（担当課）		豊島区 都市整備部 都市計画課
開催日時		平成21年1月13日（火）午前10時00分～12時00分
開催場所		豊島区役所 本庁舎4階 議員協議会室
議 題		1) 第1回検討委員会での主な意見と対応策 2) 目指すべき将来都市像 3) エリアごとのまちづくりの考え方 4) 実現化に向けた方策
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	岸井隆幸（委員長）、北川フラム、蟹江憲史、島村美由紀、国土交通省都市・地域整備局 街路交通施設課 街路事業調整官、豊島区都市整備部長
	幹 事	豊島区都市整備部都市計画課長、都市開発課長、清掃環境部環境政策担当課長、土木部道路管理課長
	事 務 局	豊島区 都市整備部 都市計画課 独立行政法人都市再生機構 東京都心支社業務第5ユニット事業企画チーム

## ■ 議 事

### 【事務局（都市計画課長）】

（資料2 説明）

### 【委員長】

- ・ まずは、検討エリアの将来都市像と各エリアのイメージについて意見交換を行いたい。エリアの設定、地域のイメージが合っているか意見をいただきたい。
- ・ はじめに事実確認として、地域冷暖房供給エリアの範囲とグリーン大通りの将来幅員構成イメージについて確認したい。

### 【事務局（都市計画課長）】

- ・ 地域冷暖房供給エリアについては、池袋駅の東側は現庁舎・サンシャイン周辺・東池袋駅前の再開発区域まで、駅の西側はメトロポリタン周辺・東武百貨店に地域冷暖房株式会社から供給している。
- ・ 現在のグリーン大通りの幅員構成は2種類あり、池袋駅前広場から五差路までは幅員50m、五差路から東池袋までは幅員40m、延長は700mである。幅員50mの範囲について公共交通以外を歩行者空間として弾力的な活用を検討している。また、幅員40mの範囲についても歩道を拡幅することは可能であると考えている。

### 【委員長】

- ・ 文化施設として、既存の東京芸術劇場や豊島公会堂、サンシャインシティ文化会館、あうるすぽっと等の役割分担の想定はあるのか。

### 【A 委員】

- ・ 豊島区内に文化施設が分散しているので、ネットワークの中心として演劇・音楽・美術等を含め様々な人が集まる情報発信拠点を乗降客の多い池袋駅近傍につくることが効果的だと思う。
- ・ 豊島公会堂については地方文化のメッカとして残せないか。地方とのつながりを持った東京として、横浜 BankART やフランスのナントのように施設を利用できると良い。駅と公会堂は少し離れているので、駅と公会堂の間に小さなパフォーマンスができる空間を作りたい。
- ・ 文化庁は文化創造都市部門において20年度豊島区を選定しており、池袋に対して好意的である。池袋は漫画等を切り口として文化的施策を行うのが良いと思っている。
- ・ グリーン大通りについては、「道庭」という概念を取り入れたいと思っている。13～14世紀のヨーロッパの庭園のように、庭をつくることイコール歩行者空間をつくることだという観点を入れたい。ランブラス通り（スペイン）のように新しい感覚の道となるはずである。グリーン大通りが良くなれば、サンシャイン周辺も変わっていくだろう。

### 【委員長】

- ・ 池袋駅西口の再開発では起爆剤になるような具体策はないか。

**【A 委員】**

- ・ 東京芸術劇場の1階と広場をつなげれば良い空間ができるのではないか。
- ・ 他にも、都心のコンベンション機能を造幣局周辺に持ってくることも考えられる。

**【委員長】**

- ・ 西口の再開発に加え、グリーン大通りの活用及び現庁舎周辺の建替えにも公会堂と広場を活用する。そしてサンシャインと造幣局のところにも新しく何か考えていくことで、駅から点々とした効果的な配置になる。

**【事務局（都市計画課長）】**

- ・ 都市構造において、池袋駅ターミナルエリアは芸術劇場の強化、東池袋エリアはあうるすぽっとの強化、賑わい交流エリアは低層部のしつらえや公会堂機能強化というように明確化し、その実現にむけて検討を進めていくという仕分けでよろしいか。

**【A 委員】**

- ・ 文化としては、機能的にまちと係わる仕組みがほしい。人が動けるようにしてあれば文化は育っていくがスピードは必要。また、都市インフラとつながって文化をやっていくことが大事。

**【委員長】**

- ・ 最終的な絵姿を描くより、動いているうちに出来上がっていくようスピード感を持ってタイミングを捉えてシナリオをつくることが大切。

**【B 委員】**

- ・ 環境への取組みは、環境のために何かをやるのではなく何かをやる時に環境に配慮するというイメージ。エリア全体の取り組みとして環境に配慮したまちづくりを提案しているが、まだイメージに過ぎず具体策がほしい。持続的なまちづくりのために、環境面がまちづくりの中にビルトインされている感覚が望ましい。池袋の挑戦に長期的な視点や全体として低炭素社会に向かうのが当然という内容が入っていると良い。グリーンがひとつのキーワードになる。
- ・ 建物を建てる時には断熱材をしっかりする、都市づくりの交通ネットワークの際に炭素低減を見据えた計画にするなど具体策が必要。

**【C 委員】**

- ・ 地域冷暖房や清掃工場の余熱利用を具体的にしていく。清掃工場から導管をひいて地域冷暖房施設をつくるなど、環境モデル都市では提案していた。中小ビルについてはCASBEEにて評価することも考えられる。また、共同熱源の検討もしたい。

**【D 委員】**

- ・ 全体の構想を描き、街区単位で具体の位置づけが必要。広範囲で設置が可能であれば、太陽光パネルも考えられる。緑被率をどう高めるかも環境的に重要。

**【A 委員】**

- ・ 大規模開発ではない場合、建替時にフランスのパサージュの概念を取り入れてはどうか。

**【D 委員】**

- 日本的に言うと路地の文化を継承していくことになると思う。池袋駅周辺は地区道路がしっかりしているので、細い動線をいかに入れ込んでいくか。
- 人のモビリティを高めるために車をどこまで入れないか、ヒューマンスケールを大事にするのであれば駐車場の問題が大きいウエイトを占める。池袋は駅前に駐車場の出入口があって車を呼び込んでいる。中心部に車を入れられないようフリンジに地下駐車場出入口を設けるべきであると思う。賑わい交流エリアでは、駐車場の付置義務制度の運用の弾力化も必要であるように感じる。アーバンデザインの作りこみができるようにしたい。
- 20～30年先を見据えて都市整備のあり方そのものに文化及び環境の要素を取り込める仕組みづくりを行いたい。

**【E 委員】**

- 昔はサンシャインのコンベンションセンターは全国的に有名なメッカだったが、現在はお台場のビックサイトに地位を譲ってしまった。それはサンシャインだけの問題ではなく池袋のパワーのなさに起因していると思う。
- 全国に名が知られるコンベンションをトリガーにして、そこから商業や文化的活動へつなげる戦略があってよい。シティセールスの面でもサンシャインのコンベンションの再構築は有意義である。
- 大仕掛けは時間がかかるので、小さな動きで迅速に行うことが重要。商業では、大型店の整備ではなく、賑わい交流エリアで通りや裏道も含めてパサージュ計画や街の細かい再整備を行うことが良いと思う。3件に1件でもよいので商業施設を組み込み、企業家に安く貸しながら、新しいことをはじめ動きを広げていけば良い。区が持っている施設で1階を開放できれば、チャレンジアブルなことができる面白いエリアになるだろう。
- グリーン大通りについては、駅に降りて街と出会った時の印象的なシーンづくりが重要。幅員50m部分だけでも道か広場かよくわからないような空間にすると、猥雑さだけではない風景をつくれるのではないか。そこで定期的に夜店が出す等のイベント等を行ってはどうか。
- 芸術やインキュベーションを商業に変えていくには、ミュージアムショップの品揃えがひとつのヒントになる。商業の売り方はどんどん進化しており新しい文化価値が生まれていくので、出来事を商品にかえていくことが可能。

**【D 委員】**

- ソフト面の取組みを実現するには、地元の商工会議所、業界団体、NPO等の活動とどうリンクするか、キャッチボールできるかが重要。
- 実現化方策について、池袋は、大地主企業が中心となっていた大丸有のエリアマネジメント協議会とは異なり、様々な主体・組織が担っていく方が適しているように思う。行政がにおいを出しすぎず器となりながら、担い手と行政のコミュニケーションにより作り上げていく筋道である。

**【委員長】**

- ・ 今回整理する将来像や実現化方策について、どのようにわかりやすく区民へ提示していくか検討が必要。

**【D 委員】**

- ・ 区民だけでなく、来街者も含めどこまでの人を対象とするかも考えなければならない。

**【委員長】**

- ・ 各エリアの考え方の表現が硬く、区民に伝わりにくいのではないかと。わかりやすい表現した資料が必要だろう。

**【事務局（都市計画課長）】**

- ・ 都市づくりだけでなく文化・環境など様々な要素を取り入れて考えたい。本日用意した資料はハード整備メインの構成になっていると感じている。

**【委員長】**

- ・ 池袋がチャレンジしなければいけないものを各エリアの施策として具体的に示したい。池袋駅ターミナルエリアは駅東西の連携と、再開発と芸術劇場のコラボレーションで強化していく。東池袋エリアはサンシャインの持っているパワーのリバイバル。賑わい交流エリアは現庁舎敷地開発に文化機能やチャレンジ機能を入れ込み、車の処理やパサージュ空間を検討。東西都市軸はグリーン大通りの整備など。

**【D 委員】**

- ・ 西口の芸術劇場と東池袋のサンシャインを中心に、各エリアのポテンシャルを再認識し次のステージへあげる必要がある。
- ・ 他の部署とのコラボレーションはどのように考えているのか。各部署との連携が必要で、役所の組織のあり方・仕事の仕方の問題に直結してくる。
- ・ キャッチフレーズは都市整備の視点からみると、焦点がぼけているように感じる。ブレークダウンして都市整備に重点をおいた表現のほうが良いのでは。キャッチフレーズが漠然としていてイメージになってしまっている。

**【C 委員】**

- ・ 訪れたい街をつくるためのチャレンジをしたい。検討エリア全体と各エリアのチャレンジを明確にするとわかりやすくなるのでは。

**【D 委員】**

- ・ 器としての都市をどのように作るか。器に盛るものとして文化、商業、環境、景観等どのように盛るか。そして両方の関係性をどう出していくか、コンセプトと都市整備をどう繋ぐか。この観点から、最終的なガイドラインのまとめ方を整理してはどうか。

**【委員長】**

- ・ アクションとして何を行うか、アクションを通じて何を培うかを明らかにするのが第一歩である。
- ・ まとめ方については事務局にて整理し、各委員と調整する。

**■その他**

【事務局（都市計画課長）】

- ・ 次回委員会は3 / 5（木） 18 : 00～豊島区役所にて。

※ 審議経過の記載が2頁以上にわたる場合は、右肩にNo.を付す。

会議の結果	—
提出された資料等	資料1 第1回池袋副都心整備ガイドプラン検討委員会議事録 資料2 第二回池袋副都心整備ガイドプラン検討委員会資料 参考資料
その他	—